ISSN 2187-0772

エジプト学研究第 24 号　2018 年

The Journal of Egyptian Studies Vol.24, 2018

目次

〈 調査報告 〉

2017 年　太陽の船プロジェクト　活動報告 …… 黒河内宏昌・吉村作治 …… 3

第 10 次ルクソール西岸アル＝コーカ地区調査概報
…… 近藤二郎・吉村作治・菊地敬夫・柏木裕之・河合　望・高橋寿光・福田莉紗・米山由夏 …… 11

第 26 次アブ・シール南丘陵遺跡調査概報
…… 吉村作治・河合　望・近藤二郎・苅谷浩子・高橋寿光・米山由夏・石崎野々花・菅沼奏美 …… 36

第 3 次北サッカラ遺跡調査概報：踏査・測量・探査報告
…… 河合　望・三井　猛・吉村作治・近藤二郎・柏木裕之・高橋寿光
・梅田由子・米山由夏・石崎野々花・菅沼奏美 …… 48

第 3 次北サッカラ遺跡調査概報：試掘調査
…… 河合　望・吉村作治・近藤二郎・柏木裕之・高橋寿光・米山由夏・石崎野々花・菅沼奏美 …… 82

エジプト　ダハシュール北遺跡調査報告―第 24 次調査―
…… 吉村作治・矢澤　健・近藤二郎・柏木裕之・山崎世理愛・石崎野々花・有村元春 …… 113

Intact Middle Kingdom Anthropoid Coffin of Sobekhat from Dahshur North:
Discovery, Conservation and X-Ray Analysis
……Sakuji YOSHIMURA, Masahiro BABA, Ken YAZAWA, Richard JAESCHKE and Masayuki UDA …… 158

〈 研究ノート 〉

エジプト出土のミケーネ土器再考 …… 有村元春 …… 178

エジプト中王国・新王国時代におけるペクトラルの副葬にみられる変化：
ダハシュール北遺跡出土資料を用いた考察 …… 山崎世理愛 …… 203

〈 資料紹介 〉

メロエの衰退をめぐる研究の現状と課題 …… 坂本　翼 …… 229

〈 動向 〉

スーダン考古学文献解題―我が国の学問的歩みを理解するために― …… 坂本　翼 …… 242

The Journal of Egyptian Studies Vol.24, 2018

CONTENTS

Field Reports

Report of the Activity in 2017, Project of the Solar Boat
……Hiromasa KUROKOCHI and Sakuji YOSHIMURA …… 3

Preliminary Report on the Tenth Season of the Work at al-Khokha Area in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian Expedition
……Jiro KONDO, Sakuji YOSHIMURA, Takao KIKUCHI, Hiroyuki KASHIWAGI, Nozomu KAWAI, Kazumitsu TAKAHASHI, Risa FUKUDA and Yuka YONEYAMA …… 11

Preliminary Report on the Twenty-Sixth Season of the Work at Northwest Saqqara by the Waseda Egyptian Expeditions
……Sakuji YOSHIMURA, Nozomu KAWAI, Jiro KONDO, Hiroyuki KASHIWAGI, Hiroko KARIYA, Kazumitsu TAKAHASHI, Yuka YONEYAMA, Nonoka ISHIZAKI and Kanami SUGANUMA …… 36

Preliminary Report on the Third Season of Arcaeological Survey at North Saqqara: Archaeological Reconnaissance, Mapping and Geophysical Survey
……Nozomu KAWAI, Takeshi MITSUI, Sakuji YOSHIMURA, Jiro KONDO, Hiroyuki KASHIWAGI, Kazumitsu TAKAHASHI, Yuko UMEDA, Yuka YONEYAMA, Nonoka ISHIZAKI and Kanami SUGANUMA …… 48

Preliminary Report on the Third Season of Arcaeological Survey at North Saqqara: Archaeological Work
……Nozomu KAWAI, Sakuji YOSHIMURA, Jiro KONDO, Hiroyuki KASHIWAGI, Kazumitsu TAKAHASHI, Yuka YONEYAMA, Nonoka ISHIZAKI and Kanami SUGANUMA …… 82

Preliminary Report on the Excavations at Dahshur North: Twenty-Fourth season
……Sakuji YOSHIMURA, Ken YAZAWA, Jiro KONDO, Hiroyuki KASHIWAGI, Seria YAMAZAKI, Nonoka ISHIZAKI and Motoharu ARIMURA …… 113

Intact Middle Kingdom Anthropoid Coffin of Sobekhat from Dahshur North: Discovery, Conservation and X-Ray Analysis
……Sakuji YOSHIMURA, Masahiro BABA, Ken YAZAWA, Richard JAESCHKE and Masayuki UDA…… 158

Articles

Mycenaean pottery found in Egypt: Revisited ……Motoharu ARIMURA …… 178

Changes in the Use of Pectorals between the Middle Kingdom and the New Kingdom
……Seria YAMAZAKI …… 203

調査報告

第 3 次北サッカラ遺跡調査概報：試掘調査

河合　望＊1・吉村　作治＊2・近藤　二郎＊3・柏木　裕之＊4
高橋　寿光＊5・米山　由夏＊6・石崎　野々花＊7・菅沼　奏美＊7

A Preliminary Report on the Third Season of Archaeological Survey at North Saqqara: Archaeological Work

Nozomu Kawai*1, Sakuji Yoshimura*2, Jiro Kondo*3, Hiroyuki Kashiwagi*4
Kazumitsu Takahashi*6, Yuka Yoneyama*7, Nonoka Ishizaki*8, and Kanami Suganuma*8

Abstract

The Japanese Expedition to North Saqqara conducted the third season of the archaeological survey at North Saqqara from August to September, 2017. This project aims to search the location of the previously unknown New Kingdom cemeteries at North Saqqara. In the third season, we continued archaeological reconnaissance, especially in the area on the eastern escarpment of the North Saqqara plateau. Accordingly, we made detailed maps in the 4 areas where some archaeological remains might be buried. Then, we carried out an archaeological sounding in the area designated as area C, which is located on the slope of the eastern escarpment between the Old Inspectorate building and the old British mission's dig house.

This paper focuses on the result of the subsequent archaeological sounding in the third season of the survey. We opened the trench C measuring 5 x 30 m and directing in an east-west axis. Under the top layer, we found 21 simple burials dating from the Late Period to the Ptolemaic Period. Three bodies among them are infants. This provide new information on the extend of the Late period/Ptolemaic period burials in Saqqara necropolis. In the lower layers containing the debris containing thick layer of mud brick fragments originated from the top of the Saqqara plateau, we found several New Kingdom pottery shards and other objects, indicating the presence of the New Kingdom tombs in the vicinity. Notably, in the eastern part of the trench, we identified a flat layer of *tafl* probably artificially rendered in antiquity in order to make some kind of platform. At the end of the season, we found a portion of the limestone cliff which seems to have been exposed in ancient times. The cliff is similar to that is located in Bubasteion where New Kingdom rock-cut tombs are hewn. It is hoped that more evidence will be revealed in the future exploration in this area of North Saqqara.

＊1　金沢大学新学術創成研究機構准教授
＊2　東日本国際大学学長 / 早稲田大学名誉教授
＊3　早稲田大学文学学術院教授 / 早稲田大学エジプト学研究所所長
＊4　東日本国際大学エジプト考古学研究所客員教授
＊5　東日本国際大学エジプト考古学研究所客員講師
＊6　鶴見大学大学院文学研究科博士後期課程
＊7　早稲田大学大学院文学研究科修士課程

＊1 *Associate Professor, Institute for Frontier Science Initiative, Kanazawa University*
＊2 *President, Higashinippon International University / Professor Emeritus, Waseda University*
＊3 *Professor, Faculty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University / Director, Institute of Egyptology, Waseda University*
＊4 *Visiting Professor, Institute of Egyptian Archaeology, Higashinippon International University*
＊5 *Visiting Lecturer, Institute of Egyptian Archaeology, Higashinippon International University*
＊6 *Doctoral Student, Department of Cultural Properties, Tsurumi University*
＊7 *MA Student, Department of Archaeology, Waseda University*

1. はじめに

古代エジプト王朝時代開闢とともに首都となったメンフィスの中心的墓地であったサッカラには初期王朝時代の大型マスタバ墓群や古王国時代の階段ピラミッドなどの王のピラミッドと高官のマスタバ墓が多数造営され、古代エジプトにおける一大ネクロポリスを形成している。メンフィスは新王国時代になり、再び王国の行政と経済の中心地となるが、当時のメンフィスの人々が埋葬された墓地については、20 世紀の終わりからようやくその存在が明らかとなってきた（河合 2017）。

サッカラ遺跡の新王国時代の墓地は、これまでにテティ王のピラミッド北墓地、ブバスティオン、ウナス王のピラミッドの参道の南を中心に確認され、1990 年代に入って北西のアブ・シール南丘陵遺跡、アブ・シール村に隣接する北サッカラなどで新たな墓が発見された。しかし、19 世紀の終わり以降、欧米の旅行者、探検家、考古学者らによってサッカラから新王国時代の遺物が欧米に流出し、各地の博物館、美術館にサッカラの新王国時代の高官墓由来の遺物が多数収蔵されているが、それらの遺物が由来した墓の正確な位置が不明であることと、第 18 王朝前期から中期にかけての墓の位置が不明であるなどの問題が指摘されており、依然としてサッカラ遺跡における新王国時代の墓地については網羅的に把握されていない（Martin 1991: 26-27）。今後未発見の新王国時代の墓地が明らかになり、調査が実施されることにより、出土遺物、図像、碑文などから当時のメンフィスの人々の埋葬習慣のみならず、社会、工芸技術、高官の業績等も明らかとなり、これまでテーベの資料を中心に偏重してきた新王国時代史の再構築が可能となることが期待される。

このような問題意識のもとに、2015 年度から科学研究費補助金基盤研究（B）（海外学術調査）による「エジプト、サッカラにおける新王国時代の墓の調査研究」（研究代表者：河合望（金沢大学）；課題番号：15H05163）を開始した。これまで、2015 年 9 月に予備調査を行い、翌 2016 年にエジプト考古省より正式なサーベイの許可が下りたことを受けて、2016 年 5 月（第 1 次調査）および 8 月（第 2 次調査）に踏査、地形測量、物理探査を行った。特筆すべき結果として、テティ王のピラミッドの北西に舌状に広がる台地を中心に約 10 万 m^2 の範囲に新王国時代の土器を中心とする遺物が集中的に分布することが確認され、新王国時代の広大な墓地の存在が想定された（河合他 2017a）。

以上のような成果を受け、2016 年 8 月には踏査の補足と新王国時代の遺物が集中的に検出されたエリア、さらには既に新王国時代の岩窟墓が発見されている北サッカラ台地東側崖部のアブ・シール村に隣接した場所の周辺の 2 箇所の計 3 カ所で 3 次元地形測量、部分的な物理探査（EM 探査）を実施した（河合他 2017b）。

2017 年の第 3 次調査では、別稿でも記したように北サッカラ台地の東側斜面にて集中的に踏査を実施した。これまで、北サッカラ台地の東側斜面には新王国時代の岩窟墓が埋蔵されていることが G.T. マーティン（Martin）を始めとする研究者に指摘されているが、北部のアブ・シール村に接する地区でラメセス 2 世時代のナクトミンなどの高官墓（Daoud et al. 2016）が偶然に発見されて以来、本格的な調査は実施されてこなかった。そこで、2017 年 8 月 19 日から 31 日にかけて踏査、地形測量、地下探査を実施し（河合他 2018）、その結果を受け、9 月 4 日から 23 日にかけて試掘調査を実施した [1)]。本稿では、試掘調査の成果の概要を報告する。

2. 試掘までの経緯

踏査では、将来遺構が検出される有望地点として、A、B、C、D の 4 カ所を調査エリアとして選定し（図 1）、3 次元微地形測量と地下探査により遺構の存在が指摘されたが、A 地区はアクセスが困難で、周囲に民家が位置することからセキュリティの問題があること、B 地区は埋蔵遺構が初期王朝時代に年代づけられる可能性が高いこと、D 地区は低位砂漠に単一の石造建造物の存在は想定されるが、周囲に墓地があるかどうかは

図 1　北サッカラ遺跡の踏査地区
Fig.1 Map of North Saqqara showing the areas of the investigation of the archaeological survey

不明であることから、C 地区で試掘を行うこととした。C 地区は、既に新王国時代の墓地が検出されているテティ王ピラミッド北墓地に近く、2016 年の第 1 次調査で確認された 10 万 m^2 の規模の新王国時代の墓地の東に位置していることから、新王国時代の遺構が埋蔵されている可能性が高い場所と推定された。すなわち、台地上には中級階層以下の単純な上部構造を持つ日乾レンガ製のトゥーム・チャペルや、単純埋葬が分布し、斜面に高官の岩窟墓が分布している状況を想定した。また、新王国時代にテティ王のピラミッドあるいは付近のメンカウホル王のピラミッドは信仰の対象となり、これらのピラミッドの周囲に墓地が発展したと考えられている（cf. Malek 1992）。さらに、砂漠のワディ・アブシールの奥部に位置するメンフィスのプタハ神の聖牛アピスの墓地であるセラペウムは、新王国時代第 18 王朝に埋葬が開始され、テティ王のピラミッドの北側に参道が位置していたと推測されており（Malek 1992: 71-72; Gessler-Löhr 2007: 69）、参道は東側斜面にも存在していたと考えられる。したがって、C 地区は新王国時代のサッカラの中心地の 1 つに近接する位置にあると考えられ、新王国時代の遺構が埋蔵されている可能性が最も高い調査区であることが想定された。以上のような理由から、C 地区における試掘を開始した。

3．試掘調査

(1) 試掘調査の概要

C 地区における試掘では、C 地区内に 5m（南北方向）×30m（東西方向）[2] の試掘区を設定し、試掘を行った（図 2, 写真 1-3）[3]。C 地区は、概ね西側から東側に降る斜面となっている。

試掘の結果、C 地区の基本的な層位は、図 3 から図 5 のようになることが明らかとなった。各層の内容については、以下の通りである。

1．撹乱層：近年のゴミ捨て場の層。
2．黄色細砂層：風成の砂の堆積。単純埋葬の盗掘後の穴に砂が堆積したものと考えられる。
3．タフラ [4] 混じり黄色砂層：風成の黄色砂層に約 1 ～ 3cm のタフラチップが少量混じる。
4．タフラ層①:約 10 ～ 15cm の日乾レンガの破片、約 5 ～ 10cm の石灰岩チップ、約 5 ～ 10cm のタフラチップが主体。堆積の方向から、上部南西側より崩落したものと考えられる。
5．タフラ層②:約 15 ～ 20cm の日乾レンガ片、約 10 ～ 20cm の石灰岩片、約 10 ～ 20cm のタフラ片が主体。第 4 層とほぼ同じであるが、層を構成する日乾レンガ片などがやや大きい。
6．黄褐色細砂層：風成の細砂層であり、砂の色がやや暗い黄褐色である。約 1 ～ 3cm のタフラチップが少量混じる。
7．レンガ混じりタフラチップ層：約 10 ～ 20cm の日乾レンガ片、約 5 ～ 10cm の石灰岩片、約 5 ～ 30cm のタフラ片が主体。堆積の方向から、北西側から崩落してきたものと考えられる。
8．タフラ層③：約 10 ～ 20cm の日乾レンガ片、約 10 ～ 20cm のタフラ片が主体。硬くしまっており、人為的に平坦面を造りだした可能性が考えられる。
9．タフラ層④：約 5cm のタフラチップと約 5cm の日乾レンガ片を主体とする層と約 5cm のタフラチップと砂を主体とする層が、ほぼ相互に水平に堆積。
10．タフラ層⑤:日乾レンガが溶けたものが主体。約 1cm のタフラチップも少量混じる。砂が混じるために、黄色味が強い。
11．タフラ層⑥：日乾レンガが溶けたものが主体。約 1cm のタフラチップも少量混じる。
12．タフラ層⑦：第 11 層と類似しているが、砂が混じるため黄色味が強い。

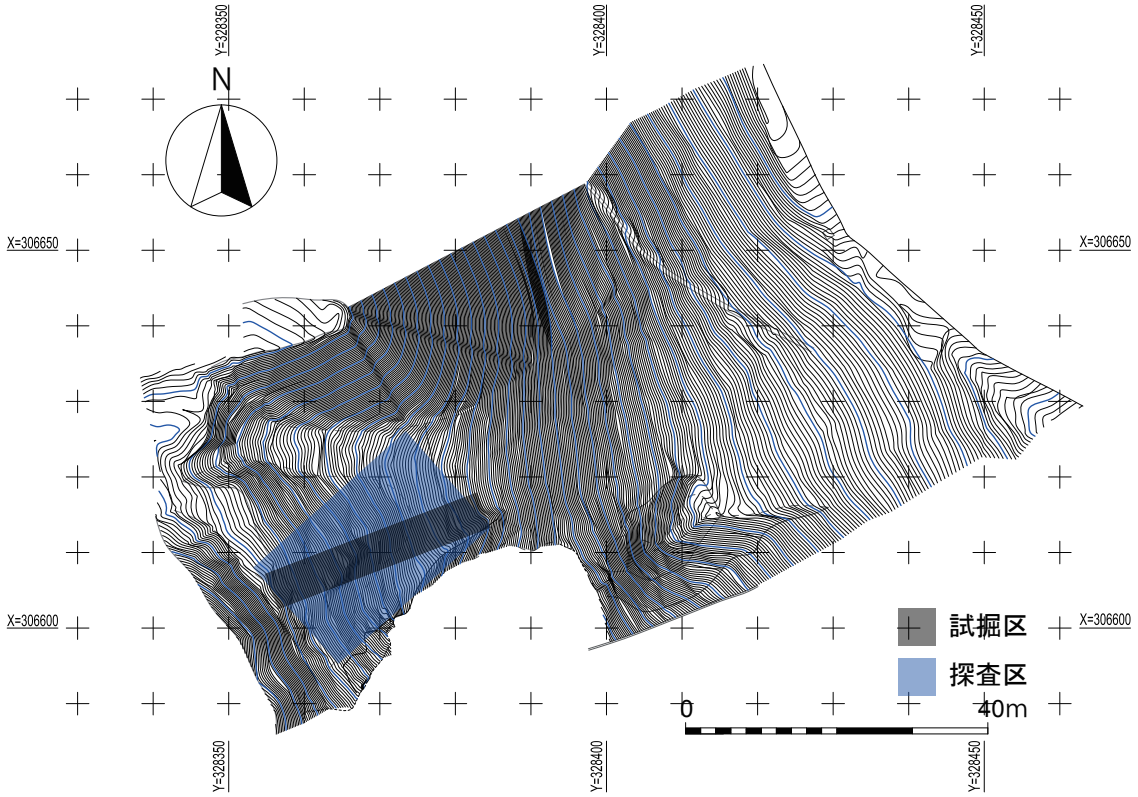

図 2　C 地区の試掘区
Fig.2 Map of the archaeological sounding area at the area C

写真 1　北サッカラ遺跡 C 地区の試掘区、試掘前（北より）
Pl.1 Archaeological sounding at the area C before work, looking from north

写真 2　北サッカラ遺跡 C 地区の試掘区、試掘前（西より）
Pl.2 Archaeological sounding at the area C before work, looking from west

写真 3　北サッカラ遺跡 C 地区の試掘区、試掘前（東より）
Pl.3 Archaeological sounding at the area C before work, looking from east

図 3　C 地区試掘区南側セクション
Fig.3 The south stratigraphic profile of archaeological sounding at the area C

図 4　C 地区試掘区北側セクション
Fig.4 The north stratigraphic profile of archaeological sounding at the area C

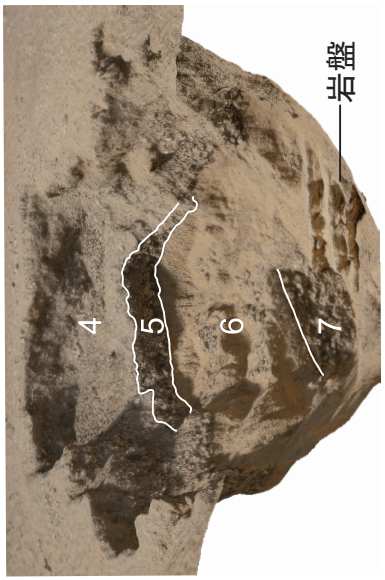

図 5　C 地区試掘区西側セクション
Fig.5 The west stratigraphic profile of archaeological sounding at the area C

表層の下に、斜面上部から人為的な廃棄の結果、堆積したと考えられるタフラ層①、タフラ層②が堆積している。層の観察から、この 2 つの層は、斜面上部の南西側から廃棄され、堆積したものと考えられる。また試掘区東側では、タフラ層②の上にタフラ混じり黄色砂層が堆積しており、タフラ層②が廃棄された後に、タフラ層に含まれるタフラを含みながら、自然に黄色の砂が堆積していったと考えられる。

これらのタフラ層①、タフラ層②、タフラ混じり黄色砂層を掘り込んで、単純埋葬が発見された。後述するように、今期調査で発見された埋葬は多くが砂の上に直接埋葬されており、このような埋葬は “simple burial” もしくは “surface burial” などと呼ばれている。本報告では、便宜的に “simple burial” を日本語に訳し、「単純埋葬」と呼ぶこととする。単純埋葬はこれまでのところ末期王朝時代からプトレマイオス朝時代に年代付けられており、従って、タフラ層①、タフラ層②の形成することとなった人為的な廃棄も古代における活動に由来すると考えられる。タフラ層①、タフラ層②には、単純埋葬の他に、古王国時代、新王国時代、プトレマイオス朝時代の遺物が含まれていることから、これらの層は斜面上部付近に位置する墓などの遺構に由来する廃棄物であると考えられる。

これらのタフラ層の下には、黄褐色細砂層が堆積している。層の観察から、この層は自然堆積と考えられる。黄褐色細砂層からも末期王朝時代からプトレマイオス朝時代に年代付けられる単純埋葬の他に、斜面上部から崩落したと考えられる新王国時代第 18 王朝初期から中期の遺物が出土している。

黄褐色細砂層の下には、タフラ層③からタフラ層⑦までが堆積している[5)]。このうち、タフラ層③については、層の観察を行ったところ、硬く叩きしめたようになっており、平坦面が形成されていた。また、その下のタフラ層④では、タフラチップと日乾レンガ片を主体とする層とタフラチップと砂を主体とする層が、ほぼ相互に水平に堆積していることが明らかとなった。こうしたことから、タフラ層③、④はこの付近で平坦面を得るために、人為的に造られた層であると判断された。その下に堆積するタフラ層⑤からタフラ層⑦については、水平堆積でないため、人為的なものか、自然堆積かの判断は困難であるが、いずれにしても、この付近で過去のある時点において、平坦面を造成するための活動があった可能性は高いと考えられる。なお、タフラ層③からは、初期王朝時代の石製容器が出土し（図 7.13）、またタフラ層③からタフラ層⑦には、古王国時代の土器が含まれていた。こうしたことから、タフラ層③の平坦面を造ったのは、古王国時代以降の可能性が考えられる。

試掘区西側では、黄褐色細砂層の下にレンガ混じりタフラチップ層が堆積している。層の内容は、タフラ層①、タフラ層②と類似しており、層の観察から、北西側から人為的な廃棄が行われた結果、この層が堆積したと考えられる。更に、この層の下からは、岩盤が確認された（写真 4）。岩盤の一部には蜂の巣の痕跡があったので、古代のある時期には露岩していたと思われる。サッカラのブバステイオンなどに見られる岩盤の露頭と同じような岩盤であり、今後、周辺から何らかの遺構が発見されることが期待される。今期は、岩盤を確認した時点で、試掘調査を終了した（図 6, 写真 5-7）。

(2) 試掘区から出土した単純埋葬の概要

今期調査のトレンチ C における試掘調査において、末期王朝時代からプトレマイオス朝時代と考えられる 21 体の単純埋葬が出土した。形質人類学の専門家による人骨の調査はまだ行っていないものの、大きさなどから 3 体は子供の埋葬、18 体は大人の埋葬と考えられる。出土状況から、多くが盗掘の被害を受けていないと考えられる。

頭位方向は、西南東向きが 14 体、東北東向きが 2 体、南西向きが 1 体、そして北北西向きが 3 体、南向きが 1 体確認された。頭位方向は真西や真北から約 20 ～ 30 度振れているものの、概ね東西方向（西南東、東北東、南西）に向いている頭位と南北方向（北北西、南）に向いている頭位の 2 種類に大別することがで

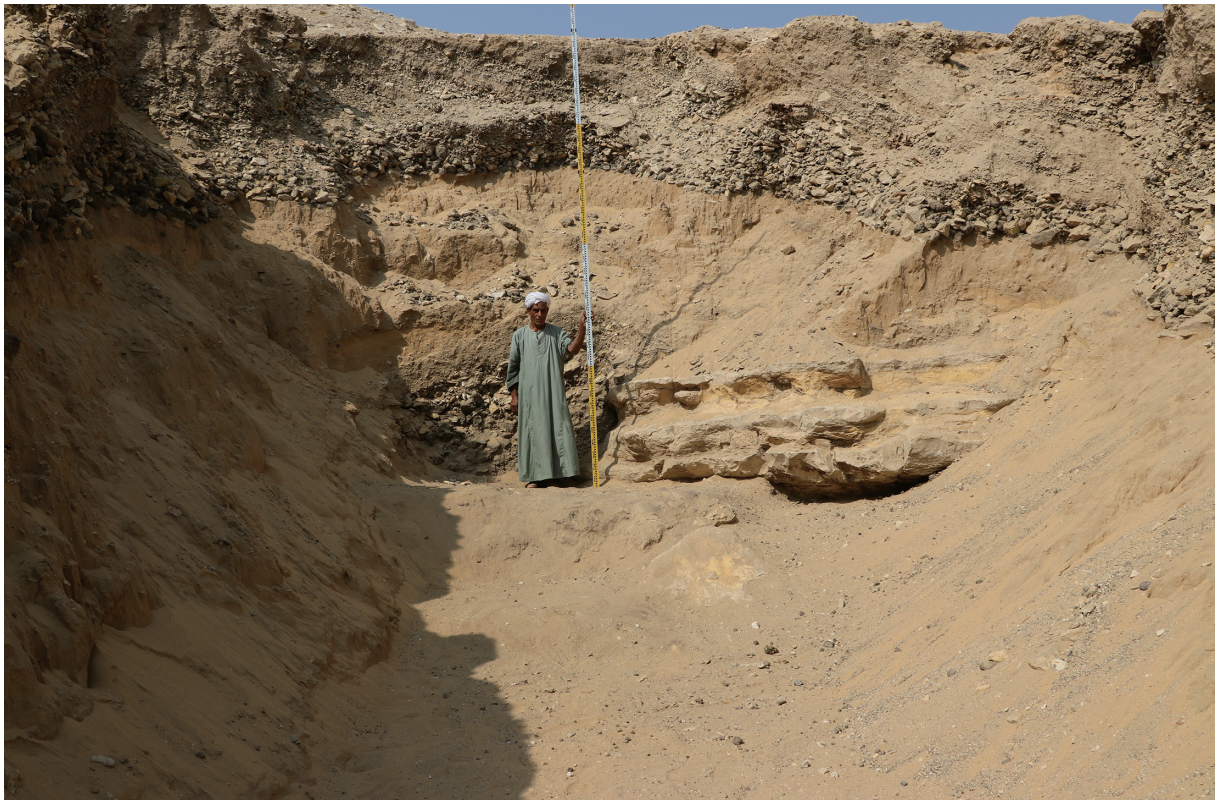

写真 4　試掘区で発見された岩盤
Pl.4 The surface of the recovered bedrock

写真 5　北サッカラ遺跡 C 地区の試掘区、試掘後（北より）
Pl.5 Archaeological sounding at the area C after work, looking from north

写真 6　北サッカラ遺跡 C 地区の試掘区、試掘後（西より）
Pl.6 Archaeological sounding at the area C after work, looking from west

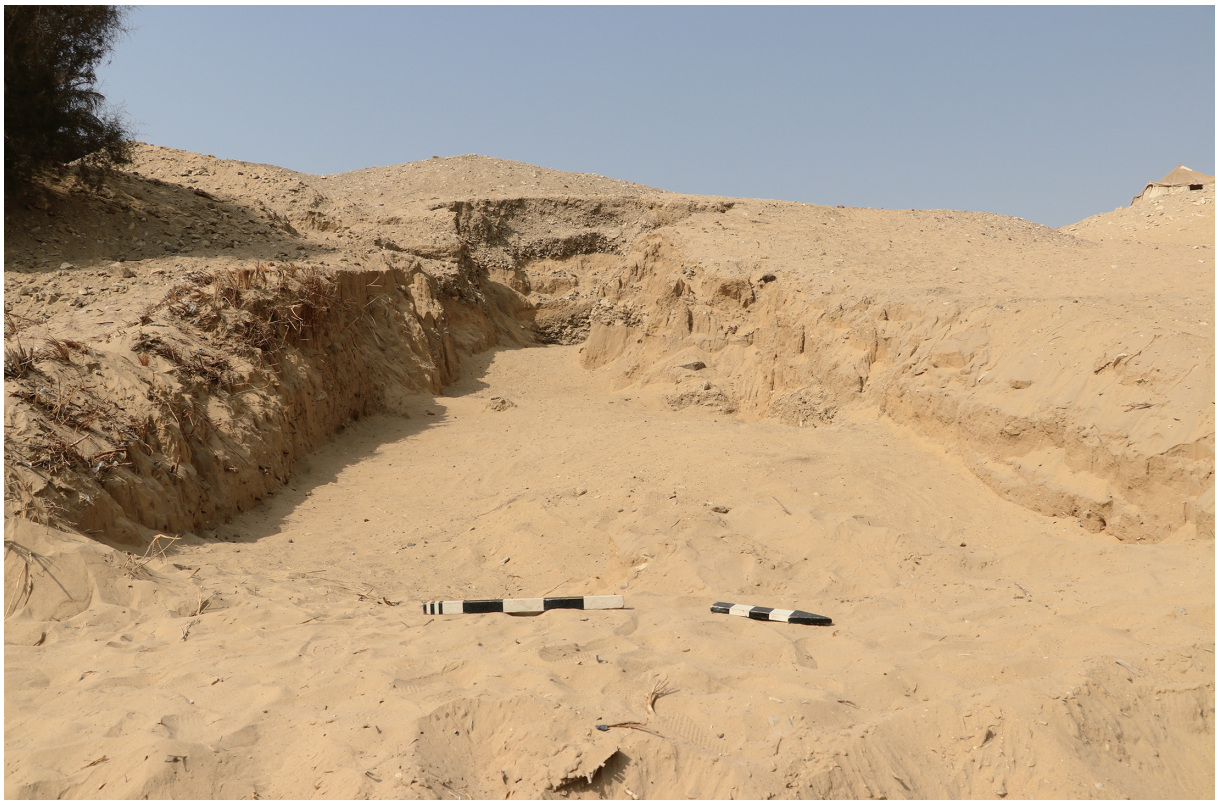

写真 7　北サッカラ遺跡 C 地区の試掘区、試掘後（東より）
Pl.7 Archaeological sounding at the area C after work, looking from east

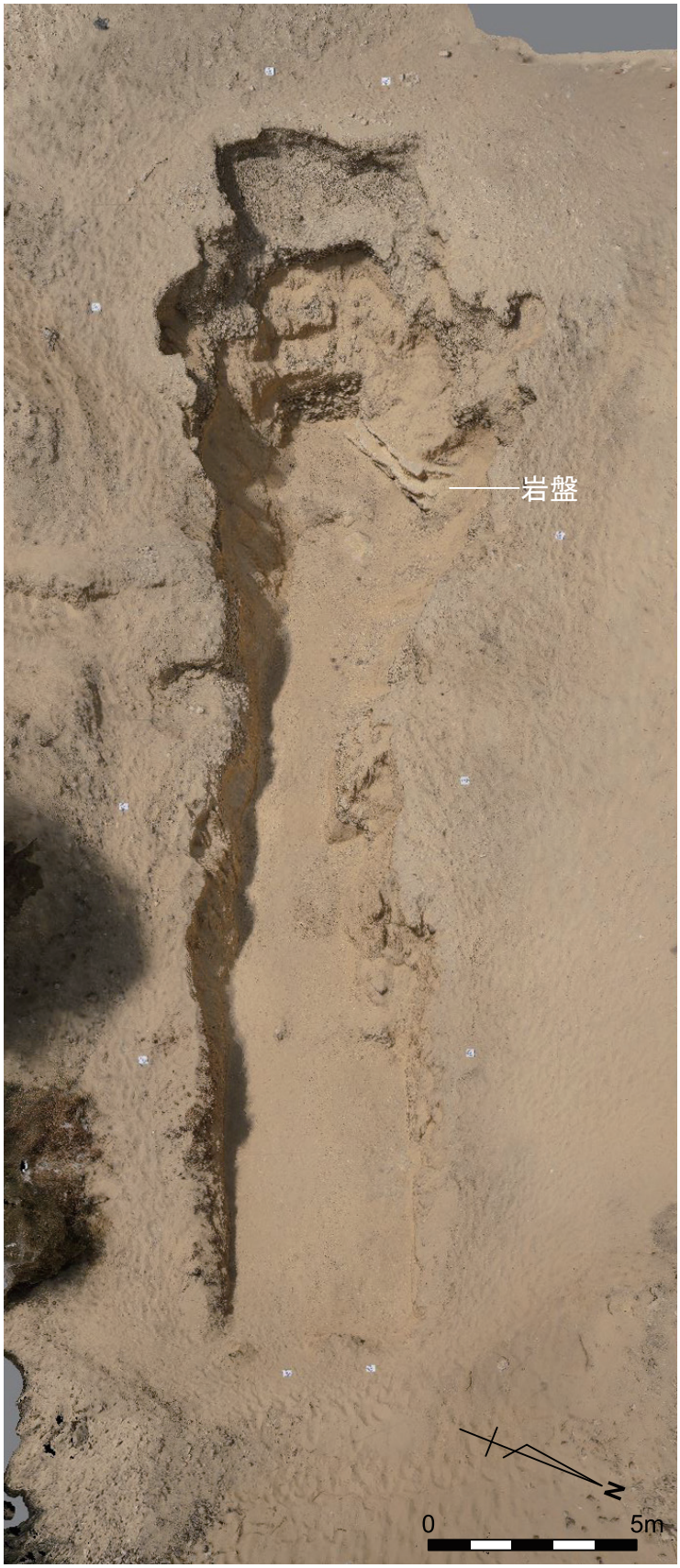

図 6　北サッカラ遺跡 C 地区の試掘区、試掘後
Fig.6 Archaeological sounding at the area C after work

きる。試掘区の斜面は、真西に対してやや南側に振れており、頭位方向が真西や真北から約 20 ～ 30 度振れるというのは、この地形に沿って埋葬したためであろうと考えられる。東西方向の頭位では顔を上に向けており（写真 8）、一方で南北方向の頭位では、顔を左側（東側）に向ける例も見られる（写真 9）[6]。また、南北方向の埋葬が下層に位置し、東西方向の埋葬は上層に位置する傾向も見られる [7]。

埋葬姿勢は全て仰臥位の伸展葬である。手の位置に関して特徴が見られ、骨盤の上に乗せている埋葬が 16 体（写真 10）、胸元で交差している埋葬が 1 体（写真 11）、手の位置が不明の埋葬が 4 体である [8]。

埋葬方法は、11 体が砂上に直接埋葬されており（写真 12）、9 体がタフラ層を掘り込んだ土坑に埋葬（写真 13）、1 体が日乾レンガの周壁の中に埋葬されている（写真 14）。土坑はタフラ層①～②もしくはタフラ層③を穿って楕円形の穴を造っている。タフラ層③を掘り込んだ土坑では、蓋石と考えられる石灰岩片も確認された。また、日乾レンガの周壁を伴う埋葬では、遺体の下に板状の木材が確認されている [9]。

ミイラ処理が施されている埋葬も 7 体確認できた。ミイラ布が明確に分かる埋葬 5 体（写真 15）と黒色樹脂（Resin）が多量に塗布されている埋葬 2 体（写真 16）があり、後者に関しては、M. ラドムスカ（Radomska）によってプトレマイオス朝時代の特徴的なミイラ処理法と言及されている（Radomska 2016: 176）。

埋葬と共伴して出土した副葬品はほとんど確認されなかったものの、周辺からはこれらの埋葬に属していたと考えられるブロンズ製腕輪（図 7.12, 写真 19）やファイアンス製アミュレット（図 7.9）が出土している [10]。いずれも末期王朝時代からプトレマイオス朝時代に年代づけられ、このような遺物からも埋葬が同時代に属する可能性が高いと考えられる。

類似する末期王朝時代からプトレマイオス朝時代の埋葬は、デルタのクエスナ遺跡（Rowlamd 2008; Rowland et al. 2010）、アブ・シールのプタハシェプセスのマスタバ墓（Strouhal and Bareš 1993）、サッカラのジェセル王階段ピラミッド西側（Radomska et al. 2008）、ジェセル王の階段ピラミッドの北に位置するセ

写真 8　顔を上に向けた埋葬
Pl.8 Simple burial with face turning upward

写真 9　顔を左側（東側）に向けた埋葬
Pl.9 Simple burial with face turning to left

写真 10　手を骨盤の上に置いた埋葬
Pl.10 Simple burial with hands on pelvis

写真 11　手を胸の上で交差した埋葬
Pl.11 Simple burial with crossed arms on the chest

写真 12　砂の上に直接埋葬
Pl.12 Burial on the sand

写真 13　タフラ層③を掘り込んだ土坑に埋葬
Pl.13 Burial dug into *tafl*-pavement

写真 14　日乾レンガ周壁内部の埋葬
Pl.14 Burial within mud brick enclosire

写真 15　布の巻かれた埋葬
Pl.15 Burial with mummy bandages

写真 16　樹脂を多量に塗布した埋葬
Pl.16 Burial with heavy use of resin

ラペウムの参道の周囲（Smith 1982）、大周壁（Mathieson et al. 1997）、アヌビエイオン（Giddy 1992）、アケトヘテプのマスタバ墓（Janot et al. 2001）などにある。

今回の調査で検出された末期王朝時代からプトレマイオス朝時代の埋葬は、アヌビエイオンの北側にも展開していることを示し、サッカラにおける同時代の埋葬に新しい資料を提供できたという点で意義がある。

4. 出土遺物

ここでは、今期の試掘調査においてトレンチ C から出土した主な遺物について報告する。

(1) ガラス製ビーズ、ガラス製およびファイアンス製アミュレット

新王国時代第 18 王朝中期の土器（図 8.1, 6）、バスケット（写真 22）とともに、ガラス製ビーズ、ガラス製およびファイアンス製アミュレットがまとまって出土した。出土状況などから、おそらく周辺の墓に由来するものと考えられる。

①青色ガラス製球形ビーズ（図 7.1, 写真 17）、NS03O0187、トレンチ C 黄褐色細砂層、幅 0.7cm、高さ 0.7cm、直径 0.7cm
②青色ガラス製樽形ビーズ（図 7.2, 写真 17）、NS03O0187、トレンチ C 黄褐色細砂層、幅 0.7cm、高さ 0.5cm、直径 0.5cm

青色ガラスで、球形ビーズ 89 個（図 7.1, 写真 17）と樽形ビーズ 13 個（図 7.2, 写真 17）で構成されている。類似したビーズはサッカラのマヤとメリト墓（Raven 2001: Pls.43.442e, f, 44.368）、パイとライア墓（Raven 2005: Pl.96.177）、ホルエムヘブ墓（Raven et al. 2011: 98.Cat.81a, b）などから出土しており、新王国時代に年代付けられている。

③ファイアンス製ベス神のアミュレット（図 7.3, 写真 17）、NS03O0187、トレンチ C 黄褐色細砂層、幅 0.4cm、高さ 0.7cm、厚さ 0.2cm、
④ファイアンス製ミン神（？）のアミュレット（図 7.4, 写真 17）、NS03O0187、トレンチ C 黄褐色細砂層、幅 0.3cm、高さ 0.9cm、厚さ 0.4cm

ファイアンス製のアミュレットで、1 点はおそらくベス神を表したものである（図 7.3, 写真 17）。類例はメンフィスから出土しており、新王国時代第 18 王朝中期から後期に年代づけられている（Giddy 1999: Pl.20.2936）。もう 1 点はモチーフが不明であるものの、ミン神を表現した可能性が考えられる（図 7.4, 写真 17）[11)]。

⑤赤色ガラス製小型アミュレット（図 7.5, 写真 17）、NS03O0187、トレンチ C 黄褐色細砂層、幅 0.3cm、高さ 0.6cm、厚さ 0.3cm
⑥赤色ガラス製胸像のアミュレット（図 7.6, 写真 17）、NS03O0187、トレンチ C 黄褐色細砂層、幅 0.5cm、高さ 0.9cm、厚さ 0.3cm
⑦青色ガラス製胸像のアミュレット（図 7.7, 写真 17）、NS03O0187、トレンチ C 黄褐色細砂層、幅 0.8cm、高さ 1.3cm、厚さ 0.5cm

ガラス製アミュレットは、赤色ガラスの小型アミュレット（図 7.5, 写真 17）、赤色ガラスの胸像のアミュレット（図 7.6, 写真 17）、青色ガラスの胸像のアミュレット（図 7.7, 写真 17）である。胸像のアミュレットは、いわゆる「祖先の胸像（Ancestor bust）」を表わしたものと考えられる[12)]。

(2) ファイアンス製アミュレット

①ウジャトの眼のアミュレット（図 7.8）、NS03O0105、トレンチ C タフラ層①、幅 0.8cm、高さ 0.7cm、厚さ 0.3cm

波状のエッジを持つ楕円型のアミュレットであり、ウジャトの眼を表現している。類似したウジャトの眼に、内部に眼を表した孔が開いているものがあるが、これには孔は開いていない（cf. Giddy 1992: 64）。類例はサッカラのアヌビエイオンの末期王朝時代の墓地（Giddy 1992: Pl.47.no.78/66, 77/282）などから出土している。

②ウジャトの眼のアミュレット（図 7.9）、NS03O0037、トレンチ C 黄褐色細砂層、幅（残存部）1.3cm、高さ（残存部）1.7cm、厚さ 0.6cm

沈め彫りでウジャトの眼を表現したアミュレットで、やや厚手のものである。類似した形態のアミュレットを C. ミューラー・ウィンクラー（Müller-Winkler,）は第 3 中間期 22 王朝から末期王朝時代第 25 王朝に年代づけている（Müller-Winkler 1987: 143, 169）。その他、サッカラのティアとティア墓（Martin 1997: Pl.174.124a-c）、マヤとメリト墓（Raven 2001: Pls.21.246, 43.387）、ホルエムヘブ墓（Raven et al. 2011: 113. Cat.147）、アブ・シール南丘陵遺跡（早稲田大学エジプト学研究所編 2006: Fig.IV-6-10.2, 3）[13] などからも類例が出土している。

③ホルスに授乳するイシスのアミュレット（図 7.10, 写真 18）、NS03O0036、トレンチ C タフラ混じり黄色砂層、幅 1.3cm、高さ 4.5cm、厚さ 2.3cm

網目状のパターンで装飾された玉座に座ったイシス女神が右手でホルスの頭を支え、左胸をホルスに差し出している姿で表現されている。頭上にはイシス女神の名前を示すヒエログリフを抱いている [14]。これは一般的に第 3 中間期以降に年代づけられ（Andrew 1994: 48）、類例は北サッカラの動物墓地（Davies and Smith 2005: Pl.XXXVc.135, 136）や大英博物館所蔵品（Andrew 1994: 22.no.18b, EA 66681）などにある。

(3) ファイアンス製シャブティ

①ファイアンス製シャブティ片（図 7.11）、NS03O0077、トレンチ C 黄色細砂層、幅 2.0cm、高さ（残存部）2.6cm、厚さ 1.3cm

胴部に “...*smtk*”「... サメテク」が刻まれており、これはプサメテクという人物名であると考えられる。類例から末期王朝時代に年代づけられる（Schneider 1977: Pl.61.no.5.3.1.140; Raven et al. 2011: 111.Cat.139）。

(4) ブロンズ製腕輪

①ブロンズ製腕輪（図 7.12, 写真 19）、NS03O0016、トレンチ C タフラ混じり黄色砂層、幅 5.1cm、高さ 6.7cm、厚さ 1.0cm

馬蹄形に似た形状に加工され、断面は不整形な円形を呈する。タフラ混じり黄色砂層から出土しており、おそらく付近の単純埋葬の副葬品であったと考えられる。同様の腕輪は、サッカラやアブ・シールにおいて、末期王朝時代からプトレマイオス朝時代における子供の埋葬に副葬されている（Giddy 1992: 51.BLJ, 54.BOB, 55.BOP; Strouhal and Bareš 1993: 23.I 305, 24.I 327, 27.I 387, 33.I 465; Radomska et al. 2008: Figs.97, 147, 480; Kaczmarek et al. 2008: Pls.LVII.b, LXIX.d; Radomska 2016: Fig.22.a-d）。

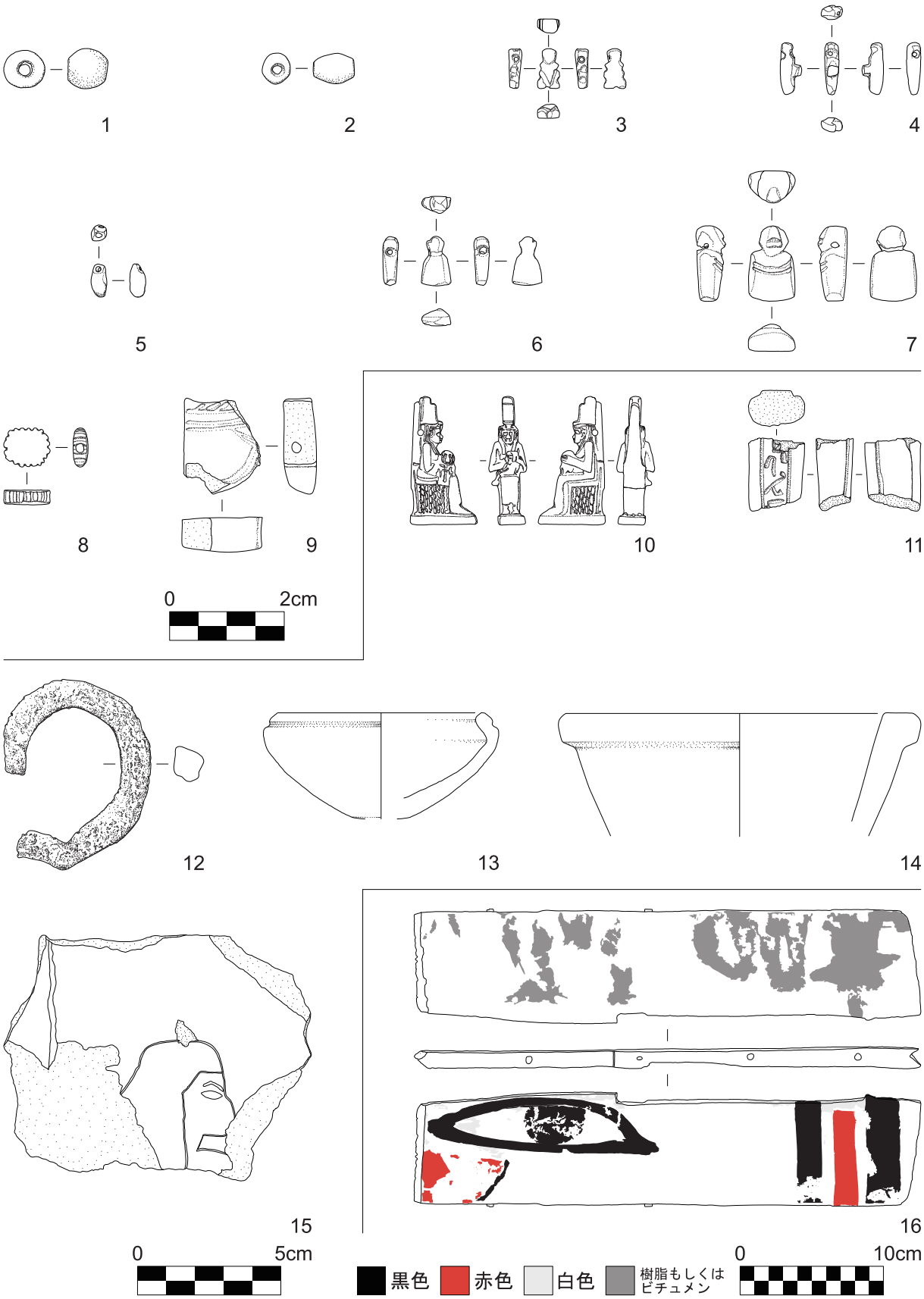

図 7　トレンチ C 出土遺物
Fig.7 The major finds from archaeological sounding at the area C

写真 17　ガラス製ビーズとガラス製アミュレット、
ファイアンス製アミュレット
Pl.17 Glass beads with glass and faience amulets

写真 18　ファイアンス製のホルスに授乳する
イシスのアミュレット
Pl.18 Faience amulet of Isis holding Horus

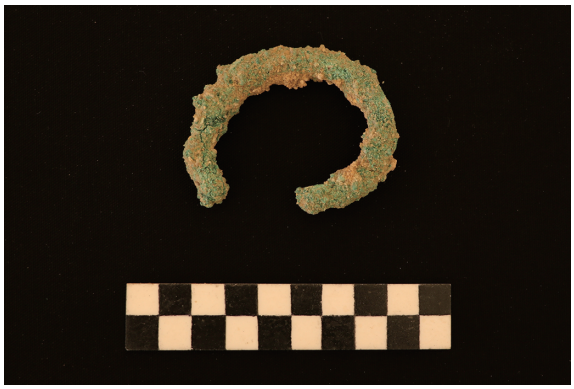

写真 19　ブロンズ製腕輪
Pl.19 Bronze bracelet

写真 20　石灰岩製レリーフ片
Pl.20 Limestone relief fragment with the image of a woman

写真 21　木棺片
Pl.21 Fragment of a coffin with *Wedjat*-eye

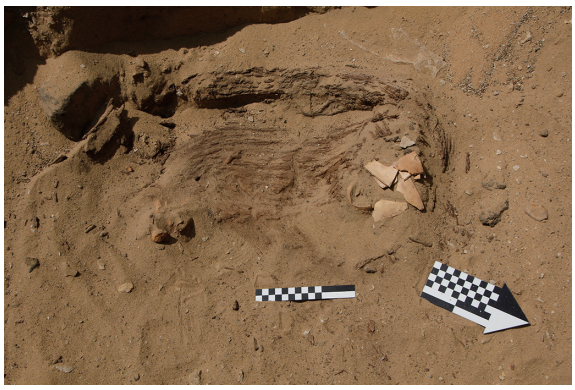

写真 22　バスケット
Pl.22 Basket

（5）石製容器

今次調査では、複数の石製容器片が出土した。その多くは斜面上部から廃棄されたタフラ層①、タフラ層②から出土しており、台地上に位置するマスタバ墓に由来すると考えられる。

①碗形容器（図 7.13）、NS03O0142、トレンチ C タフラ層③、口径 7.8cm、最大径 8.2cm、高さ（残存部）3.7cm

内湾した口縁部を有する丸底の碗である。類例はセドメントなどにあり（Petrie and Brunton 1924: Pl.V.70; Petrie 1937: Pl.XXIV.419; Aston 1994: 123; UC41274）、初期王朝時代に年代づけられる。

②筒形容器（図 7.14）、NS03O0106、トレンチ C タフラ層①、口径 12.6cm、高さ（残存部）4.3cm

筒形の容器に復元することができ、類例はタルカンなどにあり（Aston 1994: 103; UC16968）、類例から初期王朝時代に年代づけられる。

（6）石灰岩製レリーフ

①石灰岩製レリーフ片（図 7.15, 写真 20）、NS03O0126、トレンチ C タフラ層①、幅（残存部）21.5cm、高さ（残存部）17.2cm

人物の顔が描かれた石灰岩製レリーフ片である。アーモンド形の目と尖った顎の特徴から、アマルナ時代からポスト・アマルナ時代に年代付けられる（Hayes 1959: 283）。

（7）木棺

①木棺片（図 7.16, 写真 21）、NS03O0123、トレンチ C タフラ層①、幅 35.4cm、高さ 8.0cm、厚さ 1.5cm

白色の下地に黒色と赤色でウジャトの眼と縦縞が描かれた木棺片が出土した。この色調は、新王国時代第 18 王朝前半の木棺に見られる特徴である（Hayes 1959: 69, 221）。類似する縦縞は、テーベ西岸から出土した第 18 王朝時代前半の木棺に見られる（Donadoni Roveri (ed.) 1989: 53-56, Pl.27）。

木棺片の厚みは約 1.5cm であり、上部には 4 箇所、下部には 3 箇所の木釘穴が穿たれている。また、側面は矢筈継ぎの加工がされており、別の板材と繋ぎ合わせていたと考えられる。更に、裏面には、樹脂もしくはビチュメンと考えられる黒色の物質が付着していた。薄手の板材、木釘穴、矢筈継ぎの加工、黒色の物質が裏面に付着していることなどを考えると、化粧張り[15]として別の板材に付着していた可能性が考えられる。

（8）バスケット

①バスケット（写真 22）、NS03O0188、トレンチ C 黄褐色細砂層

新王国時代第 18 王朝中期の土器（図 8.1, 6）、ガラス製ビーズ（図 7.1-7, 写真 17）などとともにバスケットが出土した。その他、バスケットの下には頭蓋骨片も見られた（写真 22）。出土状況などから周辺の墓に由来するものと考えられる。バスケットは、イグサあるいは葦のような植物を編み込んで製作されている。形状は楕円形で、蓋と身で構成されている。類例は新王国時代第 18 王朝に求めることができる（Hayes 1959: 204-205, Fig.120, MMA 36.3.57a, b; Freed 1982: 136-137, Pl.132, MFA91.141.a-b; EA6312, EA6313）。

（9）土器[16]

今期調査のトレンチ試掘では、古王国時代、新王国時代、末期王朝時代からプトレマイオス朝時代の土器が発見された。中でも、新王国時代の土器が最も多く、第 18 王朝初期から中期に年代づけられる土器（図

8.1-7）や第 18 王朝後期のトゥトアンクアメン王からホルエムヘブ王の治世に年代づけられる青色彩文土器（図 8.8, 9）などがある。出土状況から周辺の墓に由来すると考えられる。

その他、特徴的な土器として、末期王朝時代に年代付けられるギリシャから輸入された土器（写真 27）があり、黄褐色細砂層から出土した黒色磨研の押印文様の施されたアンフォリスコス（写真 28）などは同じ層から出土した単純埋葬の年代の手がかりとして注目される。

①皿形土器（図 8.1, 写真 23）、NS03O0186、トレンチ C 黄褐色細砂層、口径 31.5cm、高さ 9.0cm

ガラス製ビーズ、アミュレット（図 7.1-7, 写真 17）、バスケット（写真 22）などとともに出土した。口縁に赤色の装飾が施され、内面には赤色と黒色で点文様が施されている。また、外面にも赤色と黒色の点文様が見られる。赤色の点文様の皿形土器については、D.A. アストン（Aston）の研究により、トトメス 3 世からアメンヘテプ 2 世に年代付けられている（Aston 2006）。その他、赤色の点文様の皿形土器の類例はトトメス 3 世の外国人妻の墓（Lilyquist 2003: Figs.59.e-g, 60.d, 64.i）、ルクソール西岸ナクトミン墓（Guksch 1995: Abb.39.c-e）、ルクソール西岸ドゥラ・アブ・アル＝ナガー（Seiler 1995: Abb.1, top right）などにある。ただし、これまでのところ赤色と黒色の点文様の土器は知られていない。

②碗形土器（図 8.2）、NS03O0184、トレンチ C 黄褐色細砂層、口径 15.2cm、高さ 6.0cm

全面にピンク色のスリップが施されており、口縁は黒色で塗られている。また、赤色の装飾（？）が見られる。底部には孔が開けられており、儀式に関連する土器の破壊であると考えられる（cf. Holthoer 1977: 50）。類例はテル・アル＝レタバ（Wodzińska 2014: Fig.3.5, 6）、ディール・アル＝ベルシャ（Bourriau et al. 2005a: Fig.11.1-2）、トトメス 3 世の外国人妻の墓（Lilyquist 2003: Fig.62.a）などにあり、第 18 王朝初期から中期に年代づけられる。

③碗形土器（図 8.3）、NS03O0252、トレンチ C タフラ層③直上、口径 36.0cm、最大径 37.2cm、高さ 15.3cm

クリーム色の下地に、口縁付近に波状の黒色の文様が施されている。類例はカフーン（Petrie 1891: Pl.XXVI.45）、セドメント（Franzmeier 2017: 1216/GKe/001）などから出土しており、第 18 王朝初期から中期に年代づけられる。

④壷形土器（図 8.4）、NS03O0247、トレンチ C 黄褐色細砂層、口径 4.5cm、最大径 6.6cm、高さ 6.2cm

赤色の背景に黒色の装飾のある小型の壺である。類例はルクソール西岸センネフェル墓などにある（Rose 2016: Fig.179.Ill.16）。第 18 王朝初期から中期に年代づけられる。

⑤黒色磨研壷形土器（図 8.5, 写真 24）、NS03O0046, O0047, O0060、トレンチ C タフラ層③直上、口径 4.1cm、最大径 8.1cm、高さ 14.5cm

いわゆる「黒色磨研壷形土器（Black lustrous ware）」であり、キプロスからの輸入土器であったことが知られている（Hörburger 2007: 107-114）。類例はテル・アル＝レタバ（Wodzińska 2014: Fig.3.4）、テル・ヘブア（Seiler 1997: Fig.6.ZN94/24）などにある。第 18 王朝初期から中期に年代づけられる。

⑥短頸壷形土器（図 8.6）、NS03O0185、トレンチ C 黄褐色細砂層、口径 9.7cm、最大径 15.1cm、高さ 21.1cm

ガラス製ビーズ、アミュレット、バスケットなどとともに出土した。類例はトトメス 3 世の外国人妻の墓

図 8　トレンチ C 出土土器
Fig.8 The pottery vessels from archaeological sounding at the area C

写真 23　皿形土器
Pl.23 Dish with red and black splash decoration

写真 24　黒色磨研壷形土器
Pl.24 So-called “Black lustrous ware”

写真 25　長頸壷形土器
Pl.25 Long-necked jar with bi-chrome decoration

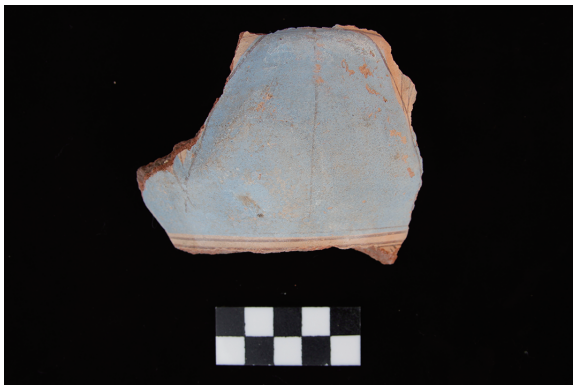

写真 26　花束型の青色彩文土器
Pl.26 Blue painted “Bouquet-like vase”

写真 27　黒色彩文のレキュトス
Pl.27 Black-figure lekythos

写真 28　黒色磨研の押印文様の施されたアンフォリスコス
Pl.28 Black gloss amphoriskos with stamped decoration

（Lilyquist 2003: Fig.65.a）、ルクソール西岸ドゥラ・アブ・アル＝ナガー（Seiler 1995: Abb.3, below left）などにあり、第 18 王朝初期から中期に年代づけられる。

⑦長頸壷形土器（図 8.7, 写真 25）、NS03O0095, O0104, O0109, O0110, O0192, O0193、トレンチ C タフラ層①～②、最大径（残存部）15.1cm、高さ（残存部）19.8cm

クリーム色の下地に、赤色と黒色の装飾が施されている。類似した装飾はルクソール西岸のセティ 1 世葬祭殿（Mysliwiec 1987: nos.22, 24）、ルクソール西岸ドゥラ・アブ・アル＝ナガー（Seiler 1995: Abb.3, top left）などから出土している。第 18 王朝初期から中期に年代づけられる。

⑧壷形土器（図 8.8）、NS03O0108、トレンチ C タフラ層①、最大径（残存部）14.2cm、高さ（残存部）5.7cm

類例はサッカラのホルエムヘブ墓に見られ（Bourriau et al. 2005b: Fig.24.129）、第 18 王朝後期のトゥトアンクアメン王からホルエムヘブ王の治世に年代付けられる。

⑨壷形土器（図 8.9, 写真 26）、NS03O0158、トレンチ C タフラ層①、最大径（残存部）16.1cm、高さ（残存部）7.7cm

この土器はいわゆる「花束型の壷形土器（Bouquet-like vase）」に復元することができる。類例はマヤとメリトの墓（Aston 2011: no.27）などにあり、第 18 王朝後期のトゥトアンクアメン王からホルエムヘブ王の治世に年代付けられる。

⑩レキュトス（写真 27）、NS03O0129、トレンチ C タフラ層②

ギリシャから輸入された黒色彩文のレキュトスである。円筒形壷の黒色彩文のレキィトスは、紀元前 5 世紀前半に年代付けられている（Ladstätter 2015: 135, no.3）。

⑪アンフォリスコス（写真 28）、NS03O0034、トレンチ C 黄褐色細砂層

同じくギリシャから輸入された黒色磨研の押印文様の施されたアンフォリスコスである。黒色磨研で押印文様の施されたアンフォリスコスは、紀元前 430 年から紀元前 4 世紀初期までに年代付けられている（Ladstätter 2015: 137, no.12）。

5. まとめ

今回の調査では、予てから G.T. マーティンらによって新王国時代の岩窟墓群の存在が推定されていた北サッカラ台地の東側斜面で初めて試掘を行うことができた。目的としていた新王国時代の岩窟墓の発見には至らなかったが、包含された新王国時代の遺物の量や出土状況から近辺に新王国時代の墓地が存在するのは明らかである。

表層から近い位置から末期王朝時代からプトレマイオス朝時代に年代づけられる単純埋葬が検出されたことで、調査地区は近現代まで手付かずであったことが判明した。すなわち、下層に埋蔵されている考古資料は、比較的撹乱を受けていない状態である可能性が高い。サッカラ遺跡における末期王朝時代からプトレマイオス朝時代の単純埋葬については、これまでジェセル王の階段ピラミッドの西側、階段ピラミッドの北側に位置するセラペウムへの参道の周囲、大周壁、アヌビエイオン、アケトヘテプのマスタバ墓などで知られているが、アヌビエイオンの北に位置する C 地区に置いて同時代の墓地の一部が新たに発見されたことは有意義な成果であったと言える。

今回の調査の成果で特に注目されるのは、試掘区東側の人為的な平坦面を形成しているタフラ層③と試掘区西側で発見された岩盤である。岩盤は、古代に露頭していたと考えられ、新王国時代の岩窟墓が位置するサッカラのブバスティオンの上部に見られる露岩域と類似している。あくまでも作業仮説ではあるが、発見された岩盤の下に遺構が存在すると仮定すると、試掘区東側で確認された人為的な平坦面は遺構の前庭部のようなプラットホームだった可能性が推定される。

来期の調査では、今回の調査で検出された岩盤とタフラ③の平坦面を手掛かりに、発掘範囲を広げて調査を継続し、この地区の新王国時代の岩窟墓の検出を目標としたい。

謝辞

本調査は、科学研究費補助金基盤研究（B）（海外学術調査）「エジプト、サッカラ遺跡における新王国時代の墓の調査研究」（研究代表者、河合　望：課題番号 15H05163）による成果である。

エジプト現地調査では、エジプト・アラブ共和国考古大臣カーレッド・アル＝アナニー閣下（博士）、考古省外国調査隊管轄事務局長ムハンマド・イスマイール博士、考古省エジプト学部門副総局長アラ・アル＝シャハータ氏、サッカラ査察局長サブリ・ファラグ氏、同副局長ムハンマド・ユーセフ氏、チーフインスペクターのハムディ・アミン氏、我々の調査の査察官アハメド・ズィクリ氏、査察官補オモネイヤ・アハマド・サベト・ハンダン氏、モニーラ・フセイン・アリ・オスマン氏を始めとする方々に多大なご協力を頂いた（肩書きは調査時のもの）。カイロでは、早稲田大学エジプト学研究所カイロ・オフィスの吉村龍人氏、ムハンマド・アシュリー氏に考古省との渉外などで大変お世話になった。

ここに記して感謝の意を表する。

註

1) 調査の参加者は以下の通りである。考古班：考古班：吉村作治、近藤二郎、河合　望、柏木裕之、高橋寿光、米山由夏、石崎野々花、菅沼奏美、現地渉外：吉村龍人、ムハンマド・アシュリー。
2) C 地区は西側から東側に降る斜面になっており、斜面は真西に対してやや南側に振れている。従って、実際の試掘区の方向は、真西、真北から約 20 度振れており、5m（南南東 - 北北西方向）×30m（東北東 - 西南東方向）となる。ただし、分かりにくいため、ここではそれぞれ南北方向、東西方向と記述する。同様に、試掘前後の写真やセクション図のキャプションなどでも、南、北、東、西の記述を用いるが、実際にはそれぞれ南南東、北北西、東北東、西南東となる。
3) なお、試掘区に沿って試掘を行ったものの、堆積する土砂のしまりが弱く、崩落が起こったため、最終的には試掘区を越えて、試掘を行うこととなった。
4)「タフラ」とは、緑灰色から黄色の粘土質のやわらかい石灰岩を指すアラビア語であり、付近の岩盤の掘削排土などに由来すると考えられる。エジプト考古学において一般的に使用されていることから、本報告でもこの用語を使用する。
5) タフラ層③からタフラ層⑦については、試掘区東側において 1m（南北）×2m（東西）のサブトレンチを設定し、タフラ層③の表面から約 4.7m 下までの試掘によって、層位の確認を行った。
6) アブ・シールのプタハシェプセスのマスタバ墓周辺から発見された末期王朝時代の単純埋葬でも、頭が北西向き、顔が左側（北東側）に向けて埋葬された少女の埋葬例が報告されている（Strouhal and Bareš 1993: 28.I 405, Pl.15.2）。
7) デルタのクエスナ遺跡でも同様の傾向が確認されている（Rowland et al. 2010: 48）。
8) デルタのクエスナ遺跡や階段ピラミッド西側でも骨盤の上に手を置く埋葬と胸の前で交差する埋葬が同じ発掘区内で出土している（Radomska et al. 2008; Rowland et al. 2010）。
9) プタハシェプセスのマスタバ墓周辺の例でも、日乾レンガの周壁内に埋葬され、木の板が遺体の下に敷かれているという例が確認されている（Strouhal and Bareš 1993: 23.I 305, 24.I 324, 25.I 375）。
10) サッカラやアブ・シールにおける末期王朝時代からプトレマイオス朝時代の単純埋葬では、ブロンズ製腕輪やファイアンス製アミュレットは、基本的に子供の埋葬から出土している（Radomska et al. 2008: 158）。

11) W.M.F. ピートリー（Petrie）は類似のものを布型（clothing）と呼んでいる（Petrie 1914: 21）。
12) 祖先の胸像（Ancestor bust）は、これまで新王国時代第 18 王朝のアメンヘテプ 2 世の治世から第 19 王朝までの例が知られている（Karen 2008: 1）。今回発見された護符の類例はアマルナなどで出土している （Keith et al. 2011: 250-271, 283-286, 326-327, 332-335, 339, 341, 349） 。
13) アブ・シール南丘陵遺跡の例については、共伴する土器から末期王朝時代第 26 王朝から第 27 王朝に年代づけられている（早稲田大学エジプト学研究所編 2006: 188）。
14) この種類のアミュレットには、イシス女神の名前を示すヒエログリフを頭上に抱くものと太陽円盤と牡牛の角を頭上に抱くものがある（Andrew 1994: 48）。
15) 化粧張りは古代エジプトで用いられていた装飾技法のひとつで、新王国時代の家具に類例がある（Killen 1980: 66, Pl.108; Gale et al. 2000: 366-367）。
16) 土器の胎土に関しては 10 倍のルーペによる観察を行い、エジプトの胎土分類システムのウィーン・システムを参照し、記述を行った（Nordström and Bourriau 1993; Bourriau et al. 2000: 130-132）。胎土の色調に関しては、マンセルのカラーチャートを用いて記述を行った。土器の器形分類に関しては、最大径と高さの関係などの数値に基づいた器形分類を参考に、エジプトの土器研究で一般的に用いられている英語名称を日本語に訳し、名称を付した（Aston 1998: 41-51）。

参考文献

Andrew, C.

1994 *Amulets of Ancient Egypt*, London.

Aston, B.G.

1994 *Ancient Egyptian Stone Vessels: Materials and Forms*, Heidelberg.

Aston, D.A.

1998 *Die Keramik des Grabungsplatzes Q I. Teil 1. Corpus of Fabrics, Wares and Shapes*, Mainz am Rhein.

2006 “Making A Splash, Ceramic Decoration in the Reigns of Tuthmosis III and Amenophis II”, in Czerny, E., Hein, I., Hunger, H., Melman, D. and Schwab, A. (eds.), *Timelines, Studies in Honour of Manfred Bietak* I, Leuven, pp.65-74.

2011 “Blue-Painted Pottery of the Late Eighteenth Dynasty, The Material from the Tomb of Maya and Merit at Saqqara”, *Cahiers de la Céramique Égyptienne* 9, pp.1-35.

Bourriau, J., Nicholson, P.T and Rose, P.

2000 “Pottery”, in Nicholson, P.T. and Shaw, I. (eds.), *Ancient Egyptian Materials and Technology*, Cambridge, pp.121-147.

Bourriau, J., Op de Beeck, L., De Meyer, M. and Vereecken, S.

2005a “The Second Intermediate Period and Early New Kingdom at Deir al-Barsha”, *Ägypten und Levante* 15, pp.101-129.

Bourriau, J., Aston, D.A., Raven, M.J. and van Walsem, R.

2005b *Memphite Tomb of Horemheb, Commander-in-Chief of Tut‘ankhamun III, The New Kingdom Pottery*, London.

Daoud, K., Farag, S. and Eyre, C.

2016 “Nakht-Min: Ramesses II’s charioteer and envoy”, *Egyptian Archaeology* 48, pp.9-13.

Davies, S. and Smith, H.S.

2005 *The Sacred Animal Necropolis at North Saqqara: The Falcon Complex and Catacomb, The Archaeological Report*, London.

Donadoni Roveri, A.M. (ed.)

1989 *Dal Museo al Museo Passato e Futuro del Museo Egizio di Torino*, Torino.

Franzmeier, H.

2017 *Die Gräberfelder von Sedment im Neuen Reich (2 vols.): Materielle und kulturelle Variation im Bestattungswesen des ägyptischen Neuen Reiches*, Leiden.

Freed, R.E.

1982 *Egypt’s Golden Age: The Art of Living in the New Kingdom 1558-1085 B.C.*, Boston.

Gale, R., Gasson, P., Hepper, N. and Killen, G.

2000 “Wood”, in Nicolson, P.T. and Shaw, I. (eds.), *Ancient Egyptian Materials and Technology*, Cambridge, pp.334-371.

Giddy, L.L.

1992 *Anubieion at Saqqâra II: The Cemeteries*, London.

1999 *The Survey of Memphis II, Kom Rabia: The New Kingdom and Post-New Kingdom Objects*, London.

Gessler-Löhr, B.

2007 "Pre-Amarna Tomb Chapels in the Teti Cemetery North at Saqqara", *Bulletin of the Australian Centre for Egyptology* 18, pp.605-108.

Guksch, H.

1995 *Die Gräber des Nacht-Min und des Men-cheper-Ra-seneb: Theben Nr. 87 und 79*, Mainz am Rhein.

Hayes, W.C.

1959 *The Scepter of Egypt II: A Background for the Study of the Egyptian Antiquities in the Metropolitan Museum of Art, The Hyksos Period and the New Kingdom (1675-1080 BC)*, New York.

Holthoer, R.

1977 *New Kingdom Pharaonic Sites: The Pottery*, Lund.

Hörburger, J.O.

2007 "Black lustrous wheel-made ware in Egypt: The distribution of a Cypriot import", in Hein, I. (ed.), *The Lustrous Wares of Late Bronze Age Cyprus and the Eastern Mediterranean*, Vienna, pp.107-113.

Janot, F., Bridonneau, C., De Roziéres, M., Cotelle-Michel, L. and Decamps, C.

2001 "La Mission Archéologique du Musée du Louvre à Saqqara: Une Nécropole d'Époque Tardive dans le Secteur du Mastaba d'Akhethetep", *Bulletin de l'Institut Français d'Archéologie Orientale* 101, pp.249-291.

Kaczmarek, M., Schweitzer, A., Godziejewski, Z. and Pannenko, I.

2008 *Saqqara III, The Upper Necropolis, Part II: Studies*, Warsaw.

Karen, E.

2008 "Ancestor Bust", in Wendrich, W. (ed.), *UCLA Encyclopedia of Egyptology*, Los Angeles, http://digital2.library.ucla.edu/viewItem.do?ark=21198/zz000s5mbz

Keith, J. L

2011 *Anthropoid busts of Deir el Medineh and other sites and collections: analyses, catalogue, appendices*, Documents de fouilles de l'Institut français d'archéologie orientale 49, Le Caire: Institut Français d'Archéologie Orientale.

Killen, G.

1980 *Ancient Egyptian Furniture, vol.*1, Warminster.

Ladstätter, S.

2015 "Greek Pottery from Syene", in Jiménez-Serrano, A. and von Pilgrim, C. (eds.), *From the Delta to the Cataract: Studies Dedicated to Mohamed el-Bialy*, Leiden, pp.132-149.

Lilyquist, C.

2003 *The Tomb of Three Foreign Wives of Tuthmosis III*, New York.

Martin, G.T.

1991 *The Hidden Tombs of Memphis: New Discoveries from the Time of Tutanhamun and Ramessess the Great*, London.

1997 *The Tomb of Tia and Tia: A Royal Monument of the Ramesside Period in the Memphite Necropolis*, London.

Malek, J.

1992 "A meeting of the old and new: Saqqâra during the New Kingdom", in Lloyd, A.B. (ed.), *Studies in Pharaonic Religion and Society in Honour of J. Gwyn Griffiths*, London, pp.57-76.

Mathieson, I., Bettles, E., Clarke, J., Duhig, C, Ikram, S., Maguire, L., Quie, S. and Tavares, A.

1997 "'The National Museums of Scotland Saqqara Survey Project 1993-1995", *The Journal of Egyptian Archaeology* 83, pp.17-53.

Müller-Winkler, C.

1987 *Die Ägyptischen Objekt-Amulette*, Göttingen.

Mysliwiec, K.

1987 *Keramik und Kleinfunde aus der Grabung im Tempel Sethos' I. in Gurna*, Mainz am Rhein.

Nordström, H-Å and Bourriau, J.

1993 "Ceramic Technology: Clays and Fabrics", in Arnold, D. and Bourriau,J. (eds.), *An Introduction to Ancient Egyptian Pottery*, Mainz am Rhein, pp.143-190.

Petrie, W.M.F.

1891 *Illahun, Kahun and Gurob: 1889-1890*, London.

1937 *Funeral Furniture of Egypt: Stone and Metal Vases*, London.

1914 *Amulets*, London.

Petrie, W.M.F. and Brunton, G.

1924 *Sedment*, London.

Radomska, M.

2016 "Child Burials at Saqqara: Ptolemaic Necropolis West of the Step Pyramid", *Études et Travaux* XXIX, pp169-202.

Radomska, M., Kowalska, A., Kaczmarek, M. and Rzeuska, T.I.

2008 *Saqqara III, The Upper Necropolis, Part I: The Catalogue*, Warsaw.

Raven, M.J.

2001 *The Tomb of Maya and Meryt II: Objects and Skeletal Remains*, Leiden.

2005 *The Tomb of Pay and Raia at Saqqara*, Leiden.

Raven, M.J., Verschoor, V., Vugts, M. and v. Walsem, R.

2011 *The Memphite Tomb of Horemheb, Commander in Chief of Tutankhamun V: The Forecourt and the Area South of the Tomb with Some Notes on the Tomb of Tia*, Leiden.

Rose, P.

2016 "The ceramics from Shaft I", in Strudwick, N. (ed.), *The Tomb of Pharaoh's Chancellor Senneferi at Thebes (TT99), Part I, The New Kingdom*, Oxford, pp.191-238.

Rowland, J.

2008 "The Ptolemaic-Roman Cemetery at the Quesna Archaeological Area", *The Journal of Egyptian Archaeology* 94, pp.69-93.

Rowland, J., Inskip, S. and Zakrzewski, S.

2010 "The Ptolemaic-Roman Cemetery at the Quesna Archaeological Area", *The Journal of Egyptian Archaeology* 96, pp.31-48.

Schneider, H.D.

1977 *Shabtis: Introduction to the History of Ancient Egyptian Funerary Statuettes with a Catalogue of Collection of Shabtis in the National Museum of Antiquities at Leiden, Part* I-III, Leiden.

Seiler, A.

1995 "Archäologisch faßbare Kultpraktiken in Grabkontexten der frühen 18. Dynastie in Dra' Abu el Naga/Theben", in Assmann, J., Dziobek, E., Guksch, H. and Kampp, F. (eds.), *Thebanische Beamtennekropolen, Neue Perspektiven archdologischer Forschung, Internationales Symposion Heidelberg 9-13.6.1993*, Heidelberg, pp.185-203.

1997 "Hebua I: Second Intermediate Period and Early New Kingdom Pottery", *Cahiers de la Céramique Égyptienne* 5, pp.23-30.

Smith, H.S.

1982 "The excavation of the Anubieion at Saqqara. A contribution to Memphite topography and stratigraphy (from 400 BC-641 AD)", *L'Égyptologie en 1979, Axes prioritaires de recherché* I, pp.279-282.

Strouhal, E. and Bareš, L.

1993 *Secondary Cemetery in the Mastaba of Ptahshepses at Abusir*, Prague.

Wodzińska, A.

2014 "Tell el-Retaba 2011: the pottery", *Polish Archaeology in the Mediterranean* 23/1, pp.109-116.

河合　望

2017「メンフィス・ネクロポリスの調査と研究」、常木　晃、西秋良宏、山内和也（編）『季刊考古学第 141 号　西アジア考古学・最新研究の動向』、雄山閣、pp. 83-86.

河合　望、吉村作治、近藤二郎、高橋寿光、米山由夏、石崎野々花

2017a「第 1 次北サッカラ遺跡踏査概報」、『エジプト学研究』第 23 号、日本エジプト学会、pp.127-144.

河合　望、三井　猛、吉村作治、近藤二郎、柏木裕之、高橋寿光、梅田由子、米山由夏、石崎野々花

2017b「第 2 次北サッカラ遺跡踏査概報」、『エジプト学研究』第 23 号、日本エジプト学会、pp.145-181.

河合　望、三井　猛、吉村作治、近藤二郎、柏木裕之、高橋寿光、梅田由子、米山由夏、石崎野々花、菅沼奏美

2018「第 3 次北サッカラ遺跡踏査概報：踏査・測量・探査報告」、『エジプト学研究』第 24 号、日本エジプト学会、pp.48-81.

河合　望、高橋寿光
2017 「古代エジプト新王国時代の墓地の調査－エジプト、北サッカラ遺跡の踏査（2016 年）－」、『第 24 回西アジア発掘調査報告会報告集　平成 28 年度　考古学が語る古代オリエント』、日本西アジア考古学会、pp.148-151.
早稲田大学エジプト学研究所編
2006 『アブ・シール南 II』、Akht Press.

エジプト学研究　第 24 号
2018 年 3 月 31 日発行

発行所 / 日本エジプト学会
〒 169-8050 東京都新宿区戸塚町 1-104
早稲田大学エジプト学研究所内
発行人 / 吉村作治

The Journal of Egyptian Studies No.24
Published date: 31 March 2018

Published by The Japan Society of Egyptologist
1-104, Totsuka-chyo, Shinjyuku-ku, Tokyo, 169-8050, Japan
© The Japan Society of Egyptologist